

平成 30 年度
「大学生による地域創生推進事業」
湯ノ花地区 拓殖大学 政経学部 長友昭ゼミナール
活動報告書



もくじ

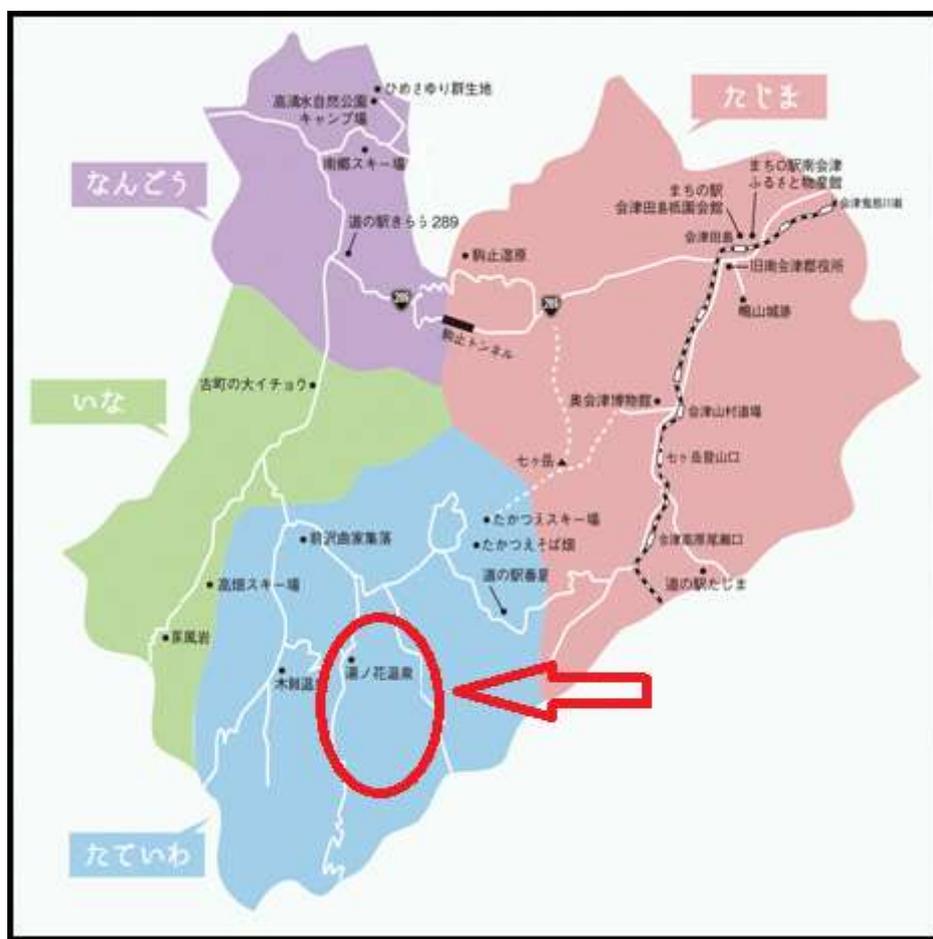
1. 南会津町湯ノ花地区について	3
2. 第1回湯ノ花実態調査	4
3. 湯ノ花地区の課題	5
4. 湯ノ花地区のみなさんとの意見交換	6
5. 課題解決に向けての提案	7
6. 終わりに	8

1. 南会津町湯ノ花地区について

南会津町は福島県の南西部、栃木県との県境にある。南会津町は4つの町村が合併してできた街であり、湯ノ花地区は、旧館岩村に位置している。湯ノ花地区の人口は190人（82世帯）で、男性は98人、女性は92人。高齢化率は43%となっている。

湯ノ花地区の主な産業は農業と観光で、名産品には赤かぶや裁ちそばがある。観光では4つの共同浴場をはじめとした温泉、大嵐山や湯ノ倉山などの登山、冬はスキーなどが盛んである。

実際に行った学生の感想としては、お会いした方々の人柄がとても良く、優しく接していただいたことが印象に残っている。また、道路が綺麗に整備されていて、昔ながらの田舎という印象とは違っていた。



2. 第1回湯ノ花地区実態調査

我々は第1回の湯ノ花地区の実態調査を行った。実施期間は11月14日から15日の2日間であった。活動内容は、初回ということで、湯ノ花地区の方々との交流をはじめとした、地域の散策、見学であり、魅力と問題点を探りに行った。

共同浴場などを回った1日目は、自然豊かな土地で景色が美しいといったものから、街灯やコンビニが少なく、利便性に欠ける、といった学生の意見が出た。

前沢集落などを訪れた2日目は、曲家が立ち並ぶ集落は落ち着いた雰囲気、リラックスが出来た、という学生の意見が出た。2日ともに共通した意見としては、人が少ないというものであった。

なお、この時の活動内容は拓殖大学のホームページにも掲載されている。

「長ゼミナールが福島県の委託事業で南会津町湯ノ花地区の実態調査を行いました」

<https://fpse.takushoku-u.ac.jp/news/20181116-03.html>

3. 湯ノ花地区の課題

ここで見つけた課題としては、人口減少や少子高齢化、所有者不明土地、空き家問題といった人の少ないことによって起こる問題が顕著に表れていた。



4. 湯ノ花地区のみなさんとの意見交換

第1回の実態調査とそこで見つけた課題をふまえて、2月5日から6日に湯ノ花地区を再訪した。6日は、湯ノ花地区のみなさんと学生で、今後の課題について意見交換をした。第1回の実態調査を経験していたので、その時に感じたことも意見を伝えることができた。民宿のリピーターを大切にしつつ、新しい観光客を呼び込む方法などを話し合った。

意見交換の後は、湯ノ花の郷土料理などの昼食を作っていたいただき、一緒にいただいた。



5. 課題解決に向けての提案

とにかく関係人口を増やすことに注力すべき、というのが学生の共通意見であった。郷土料理や温泉などの魅力は十分にそろっているので、その魅力を継続的に、県内外問わずアピールすることが大切であるということだ。存在を知ってもらうために、インスタグラム、Facebook、TwitterなどのSNSを利用することを提案した。

もっとも、学生だけでは継続するだけでなく、学生と住民がやり方やコツなどを共有して、学生と住民の双方で続けていけるようにすることを目指したい。



6. 終わりに

我々が訪れて思ったことは、湯ノ花には今でもたくさんの魅力があるのに、その魅力に気づいてもらえておらず、もったいない、ということである。

住民の方々と意見交換をした際に、まずは観光客を増やしていきたい、という意見が多く出た。そして、新規で来る観光客はインターネットを見て湯ノ花地区に興味を持つ方が多い、という話もあった。それをふまえて、情報発信にさえ力を入れれば観光客は今以上に集まるのではないのだろうか、という意見が多く出た。湯ノ花の魅力は素晴らしく、リピーターは非常に多いそうで、いつも決まってくるそうだ。SNSが発達し、誰でもすぐに様々な情報が得られる情報化社会となった今、真に注力すべきは新たに何かをやる、ということよりも今持っている魅力をいかに発信していくか、ということである。